

老
中
小
企
業

リ

耐
震
偽
装

販売量に応じ植林

横浜消火器 環境保全へ貢献

事業所向け消火器販売の横浜消火器(横浜市磯子区)は、顧客が購入した消火器の薬剤量に応じて植林する「ECOする消火器」を販売し、二酸化炭素(CO₂)を吸収する森づくりに取り組んでいる。

消火器用薬剤が二百五十キ(一般的な事業所向け消火器で八十四本)売れるごとに、環境コンサルティング会社を通じて中国・内モンゴル自治区にカラマツ一本を植林する。二百五十キは一本のカラマツが三十年間で吸収するCO₂と同量という。

消火器には植林への協力を証明するシールを添付し、二百五十キ分の購入で

植林証明書も発行する。顧客にとっては社会貢献をPRできるメリットがある。

高橋利弥社長が、県中小企業青年中央会の異業種交流で植林に取り組む産廃処理会社と知り合ったのがきっかけ。CO₂を薬剤に使った消火器も販売しており「少しでも環境保全に貢献したい。企業の責任として、

できることから始める(高橋社長)ことにした。

国の検定を受ける消火器はメーカーが異なっても差別化が難しいため価格競争になりやすく、付加価値を付けて販売を促進する狙いもある。植林費用は同社で負担し、販売価格は同額にしている。

今年二月の販売開始から一カ月間で薬剤三千二百五十キを販売し、カラマツ十三本を植林した。同社の通販サイト「ひのようじん」で個人でも購入できる。

(吉田 勝行)



消火器販売で森づくりに取り組む高橋社長
—横浜市磯子区の横浜消火器